

# 保険・年金 フォーカス

## 金融危機からの回復を示す 米国生保市場の 2011 年業績 —収入保険料と個人生命保険販売動向から—

保険研究部門 主任研究員 松岡 博司  
(03)3512-1782 matsuo@nli-research.co.jp

### 1—はじめに

米国生保市場は世界最大の生保市場である。ペンシルバニア生命保険・年金会社が大量向けに営業を開始して市場がスタートした 1812 年から本年でちょうど 200 年。近代生命保険業の祖エクイタブル生命が 1762 年に設立された英国生保市場に半世紀の遅れを持ってスタートした米国生保市場は、19 世紀の末には英国を凌駕する規模に拡大し、以降、世界最大の生保市場であり続けてきた。米国生保市場に成長をもたらしたのはいかにも米国的な拡大指向の積極経営、中でも代理店を用いた大量販売であった。

順調に拡大を続けてきた米国生保市場は、リーマンショック後の金融危機の中、2008 年第 4 四半期の個人生命保険販売が対前年同期▲14%と 1951 年以来最大のマイナスとなったのを最初に、2009 年第 1 四半期には▲26%と 1943 年以来最大のマイナスを記録するなど、厳しい業績悪化に見舞われることとなった(米国の生保マーケティング調査機関リムラの統計による)<sup>1</sup>。

しかし最近発表され始めた 2011 年の業績統計では、米国生保の回復傾向が見られるようになっている。

### 2—収入保険料(新契約および既存契約からの保険料)増減率の動向から見る金融危機からの回復

米国の生保市場においては、生命保険(個人生命保険、団体生命保険)、年金(個人年金、団体年金)、医療保険(個人医療保険、団体医療保険)という形で事業領域が認識されている。

次表は 2008 年から 2011 年の各年に、各事業分野の収入保険料(新契約からの保険料と前年以前に販売された既存契約からの保険料の合計)が前年に比べて何%増減したかを見たものである。金融危機さなかの 2009 年には個人医療保険を除く全分野が対前年マイナスを記録し、保険料合計でも対前年▲8.2%と、非常に厳しい状況であったことがわかる。これが 2010 年になると、個人年金と団体医療保

<sup>1</sup>金融危機までの米国生保業界の動向については、拙稿「[景気後退下の米国生保業界—米国生保市場のトレンドは変化したか—\(2009年8月\)](#)」をごらんいただきたい。

険で若干の落ち込みを示しているものの、保険料合計では 1.1%増と持ち直しを見せている。さらに 2011 年になると、11%台の大幅な改善を果たした年金（個人年金、団体年金）分野に牽引され、保険料合計の増加率も 6.4%と金融危機以前の水準に戻った。

米国生保市場は金融危機後の悪環境を乗り切ったようである。

### 生命保険料収入の対前年増減率の推移

	2008年	2009年	2010年	2011年
生命保険	▲7.4%	▲10.1%	3.6%	4.0%
個人年金	7.6%	▲10.7%	▲2.5%	11.3%
団体年金	3.7%	▲14.4%	1.3%	11.8%
団体医療保険	5.6%	▲1.8%	▲0.2%	2.0%
個人医療保険	13.9%	6.1%	6.5%	▲2.4%
保険料合計	3.0%	▲8.2%	1.1%	6.4%

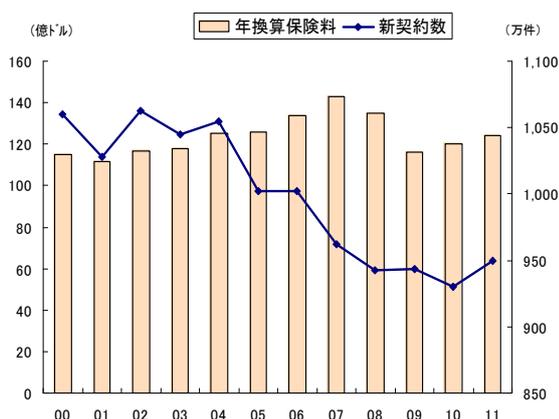
(資料) AMベスト “2011 Financial Review: Life/Health Industry Navigates Through Low Interest-Rate Environment” より作成

### 3—個人生命保険販売における業績回復

個人生命保険分野の販売動向を見ても、米国生保市場の業績回復傾向が見て取れる。

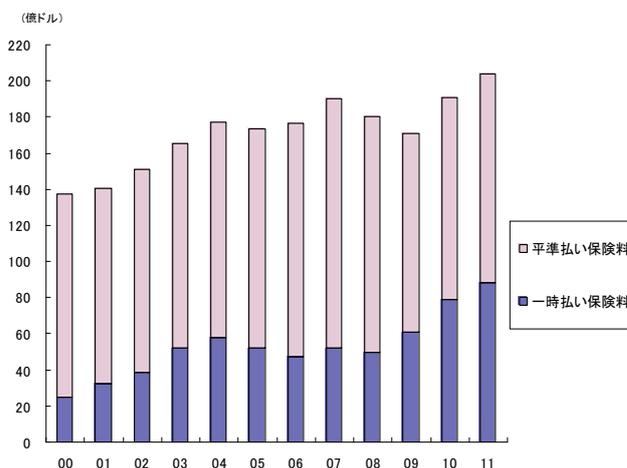
下の左側のグラフは、個人生命保険の販売状況を「新契約年換算保険料（一時払い保険料は10分の1して計算したもの。米国ではこの数値が新契約販売の指標として使われる）」と「新契約件数」で見たもの、右側は販売状況を「グロスの新契約保険料（一時払い保険料を10分の1せず、そのままの数値で計算したもの）」で見たものである。

新契約件数と新契約年換算保険料の推移



(資料) LIMRA INTERNATIONAL ” U.S. Individual Life Insurance Sales Trends, 1975 - 2011” より作成

新契約保険料の推移



「新契約年換算保険料（左グラフ）」、「グロスの新契約保険料（右グラフ）」とも、2009年の数値を底に、2010年、2011年と増加基調にある。こうした業績の回復には、一時払い商品の販売増が大きく寄与した。一時払い保険料をそのままカウントする「グロスの新契約保険料（右グラフ）」では、2011

年の数値は2000年以降の最高値となっている。

左側のグラフを見ると、2011年は対前年で新契約件数も増加している。米国の個人生命保険分野では新契約件数が1983年をピークに趨勢的に減少してきており、新契約件数が対前年で1万件以上の増加を示したのは、1984年以降では3回目（2002年、2004年、2011年）ということである。

#### 4—さいごに

以上、収入保険料の動向と個人生命保険の販売動向から米国生保の金融危機後の業績を見てきた。米国生保市場は、厳しい状況を切り抜け、再び成長軌道にもどったと言えそうである。

〔米国生保市場の動向については、引き続き、「保険・年金フォーカス」各号において、最新の情報をもとに、多様な方面から取り上げていく予定です。〕